

次の質問に移ります。夜間中学についてです。夜間中学につきましては、国の積極的な支援が約束、また、時の総理が国会で答弁されてから私の質問は5回目となります。

改めて申し上げますが、夜間中学は義務教育を修了しないまま学齢期を過ごした方、また不登校などの様々な理由から十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方、そして、外国籍の方などに義務教育を受ける機会を実質的に保障するための様々な役割を果たしています。

さらに、学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校として、香川県三豊市の夜間中学では特例校の指定を受け、現役の中学生も学んでいます。

これまでの市議会でも、多文化共生の観点から黒田議員、また、令和5年9月議会では神野議員が質問され、小野志保議員は市長就任後の令和6年12月議会でも夜間中学を取り上げております。

しかしながら、教育委員会としては、学校教育が抱える課題が多く、夜間中学の必要性は認識されながらも、開設に向けての取組には言及できない状況であると察しております。

学校教育の課題は全国的に共通しているものも多いんですが、資料1、こちらを御覧ください。（資料を示す）文部科学省の令和6年10月時点のデータによると、令和7年度には、県立、市立の夜間中学が石川県、滋賀県湖南市など9校開校される予定です。

資料2、こちらのほうですが、御覧ください。（資料を示す）設置主体、学校名一覧ですが、大きい町、県庁所在地に集中しておらず、地域の特性に応じて、群馬県では伊勢崎市に、静岡県は県立で磐田市に本校、三島市に分校が開校されています。和歌山県では和歌山市立で令和7年度、県立で新宮市に令和8年度、開校予定のようです。

昨年12月に、ワクリエ新居浜で、「誰一人置き去りにしない教育を求めて、夜間中学、学びの多様化学校がなぜ必要なのか」と題して、岡山自主夜間中学校代表、三豊市総合政策アドバイザーなどを務められている城之内庸仁教諭の講演が開催されました。多くの議員も参加されましたが、夜間中学の認識を新たにし、新居浜にもと皆さん思われたようです。城之内先生の活動の原点は、不登校のまま卒業した教え子たちの失った学びの時間への悩みからです。原動力は夜間中学の取組を知り感銘を受けて、学ぶことは生きること、失った学びの時間を取り戻す、学び直したい人は必ずいると、誰一人置き去りにしない教育を求めて行動されています。ぜひ、愛媛に、東予に、新居浜に、誰一人取り残さない学ぶ喜びの場として、夜間中学を城之内先生と共に検討したいと思いを深めました。

県からのアプローチを待つのでなく、新居浜市から西条、四国中央市を含めた東予から、地域にあるべき夜間学級として検討できないかと考えます。

教育委員会からはニーズがないのでと、これまで御答弁いただいておりますが、これにつきましては、過去にも述べさせていただきましたが、令和2年の国勢調査に基づく文部科学省の資料で、確実にニーズは存在すると言われております。

そこでお伺いします。市民ニーズの把握を目的に、夜間中学の必要性について調査する検討ができないかということです。

また、市の広報を通じて夜間中学の理解を深め、誰一人取り残さない取組の一環として、ニーズを掘り起こして確認することができないか、御所見をお聞かせください。

文部科学省の夜間中学設置に係るニーズ調査ガイドラインでは、夜間中学の入学希望者の数だけでなく、周囲の人々が持つ期待についても考慮すべきとされています。入学希望者アンケートだけでは十分なニーズの把握は難しいため、周囲の理解と紹介を通じたニーズ把握が必要だと考えております。

さらに、国の資料に基づき、新居浜市における対象者について、小学校未修学者、十分に授業を受けられないまま卒業した形式卒業者や外国籍の方を含めて、私なりに推測したところ、対象者の0.5%が入学を希望すれば、十分に開設が検討できる人数に達すると考えています。

市の広報機能は、本市の政策を効果的に広報することが主眼ですが、新居浜の未来に必要な教育環境の構築についても、視点を持つ必要があると思います。

そこで夜間中学についてもう一点お伺いします。12月議会での小野志保議員の答弁で、教育長から御答弁いただき、市長からも御答弁いただきました。夜間中学の必要性は認識されているとのことですが、さきに述べさせていただいたとおり、教育委員会としては教員不足、不登校対策などの対策に力点を置き、夜間中学についてはなかなか言及できない状況だと察します。市民福祉、誰も取り残さない取組として全国で開校に至っている状況から、新居浜市として、子供・若者支援策として御検討いただけないでしょうか。御所見をお伺いします。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。高橋教育長。

○教育長（高橋良光）（登壇） 夜間中学についてお答えいたします。

夜間中学につきましては、令和6年12月議会におきましても、小野志保議員さんから設置に向けた御提案をいただいたところでございますが、教員不足や財源に関する課題などがございます。先日の愛媛県議会でも夜間中学の設置について質問があり、県教育長から、市町と連携し設置の在り方を研究していきたいとの答弁がございましたが、本市におきましても、引き続き、連携した取組を進めてまいりたいと考えております。

また、ニーズ調査につきましても、愛媛県と連携して行っており、過去最多の回答を得るなどの成果もあったとのことでございますから、現時点で市独自の調査は予定してお

りません。

広報につきましては、文部科学省におきまして、広報動画やポスター、映画とのタイアップなどにより積極的に取り組まれておりますことから、本市におきましても国の広報活動を推し進めることで、夜間中学を市民の皆様を知っていただきたいと考えております。

次に、子供・若者支援策としての検討につきましては、冒頭に申し上げました課題がございますことから、愛媛県や他市町と連携した取組を進めていく中で、検討していく必要があるものと考えております。

○議長（小野辰夫） 合田晋一郎議員。

○10番（合田晋一郎）（登壇）

教育長、御答弁ありがとうございます。

夜間中学に関しましては、いろいろ課題等があるかと思います。設置に向けての課題等があるかと思います。子供・若者支援で言いますと、新潟県の三条市は子ども・若者総合サポートシステムという形で、教育委員会に子育て支援課が設置されていろいろ取り組まれております。やっぱり教育の分野と福祉分野、特に学歴だけでなく、25歳までを対象に教育委員会で取り組んでおります。そういった取組も重要じゃないかと思います。

また、夜間中学に関しては、私もスマホを開けるといつもいろいろニュースが流れてきます。私だけかもしれませんが。その中で最近ですと、2027年度開校予定の軽井沢町は学びの多様化学校として、夜間中学を併設して開校されるという報道もありました。

また、映画のほうの報道があつて、先ほど教育長も言われましたが、文部科学省とタイアップして、

「35年目のラブレター」というのが、新居浜市でも公開されます。これは、奈良の春日中学校夜間学級卒業生の西畑保さんの実話を原作とした映画で、その西畑さんは、夜間中学の素晴らしさとか必要性を全国で訴えている方でした。その方が映画化されたという形で、その方の実話の話になりますが、3月7日公開ですので、私も楽しみにしています。

この中で、先ほどのAIじゃないんですけど、これもどうしたら実現するかというのをちょっとAIに問うてみました。そうすると、やっぱり夜間中学の意義を広く周知する効果的な広報活動が不可欠であると。市民へのメッセージと共感、また教育機会の重要性。また、市が社会的包容、包摂ですね、誰一人取り残さない、そういった形での理念を打ち出すことで市民の共感を呼び、開校への支持を広げることができると、そのような話でした。やはり市の強い思いとリーダーシップで、夜間中学は地域にとってかけがえのない教育の場となるということで締めくくられていました。そういった形での取組を今後期待したいと思います。